

# 2018年3月期 決算説明資料

2018年5月11日（金）  
株式会社 **力ネ力**

# 目 次

---

業績概要	1
四半期別 売上高・営業利益	2
セグメント別 売上高・営業利益	3
事業概況	4
貸借対照表	8
キャッシュ・フロー計算書	9
業績予想	10
セグメント別業績予想	11
(ご参考)	12

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

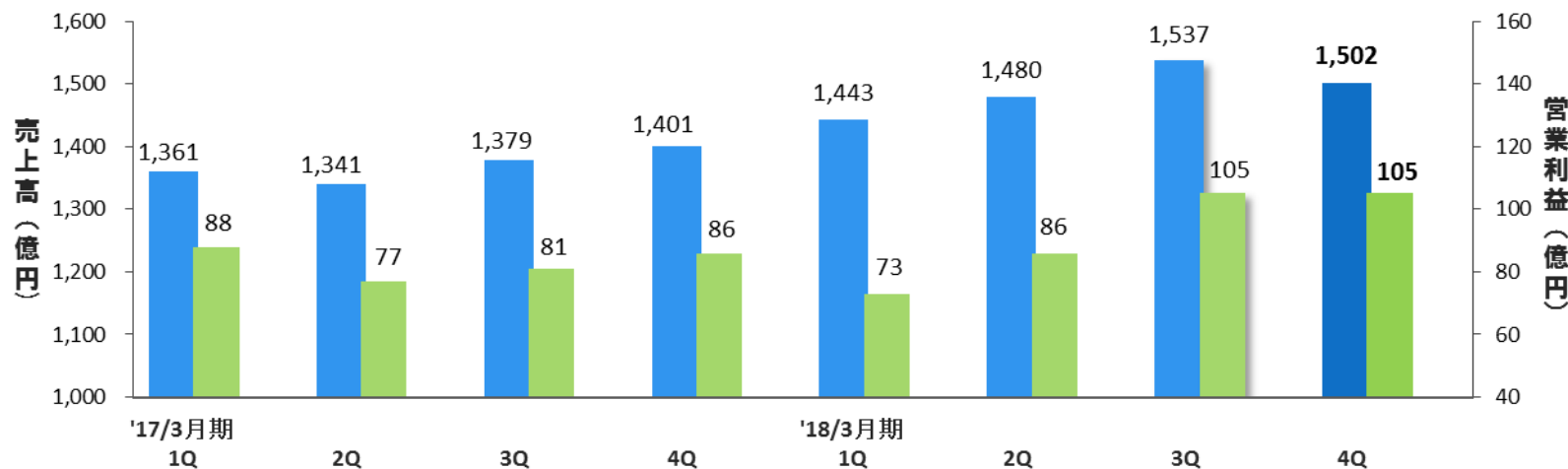
(単位：億円)

	2017年3月期	2018年3月期	増減		2018年3月期 (業績予想 <sup>※</sup> )
			金額	%	
売上高	5,482	5,961	479	8.7%	6,100
営業利益	332	369	37	11.2%	370
経常利益	274	328	53	19.5%	330
親会社株主に帰属する 当期純利益	205	216	11	5.3%	210
1株当たり当期純利益	61.72円	65.69円			63.96円
ROE	6.9%	6.8%			
ROA	4.7%	5.3%			

※2017年11月9日公表

- 売上高は過去最高を更新、営業利益・経常利益・純利益はいずれも増益  
売上・利益とも業績予想並みの実績となった
- アジアを中心とした海外売上高の伸びと差別化力ある新製品投入が事業拡大を牽引

# 四半期別 売上高・営業利益



(単位：億円)	2017年3月期			2018年3月期			増減		
	上半期	下半期	年間	上半期	下半期	年間	上半期	下半期	年間
売上高	2,702	2,780	5,482	2,923	3,039	5,961	221	258	479
営業利益	165	167	332	159	210	369	△ 6	43	37

- 売上高は順調に拡大、3Qより1,500億円/Q台にのせ、営業利益も3Q・4Q連続で100億円/Q超を確保した
- 海外を中心とした能力増強と新製品拡販の効果が表れ、下半期から当社業績のファンダメンタルズが大きく変わった

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2017年3月期	2018年3月期	増減		2017年3月期	2018年3月期	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	207,296	238,880	31,584	15.2%	22,251	27,109	4,857	21.8%
Quality of Life SU	136,849	149,360	12,510	9.1%	15,041	13,730	△1,310	△8.7%
Health Care SU	45,141	45,856	715	1.6%	10,896	9,849	△1,047	△9.6%
Nutrition SU	157,989	160,930	2,940	1.9%	5,280	6,531	1,251	23.7%
その他	945	1,114	168	17.9%	382	520	138	36.2%
調整額	-	-	-	-	△ 20,687	△ 20,853	△165	-
計	548,222	596,142	47,920	8.7%	33,164	36,888	3,723	11.2%

※SU : Solutions Unit

<b>Material</b>	Vinyls and Chlor-Alkaliはアジアでの旺盛な需要に支えられフル稼働、Performance Polymersはグローバルに旺盛な需要が続き、マレーシア新設備も寄与し販売が拡大
<b>Quality of Life</b>	E & I Technologyは大手スマホ機種向けに高機能品を中心として販売が拡大、Foam & Residential Techsは販売数量は順調に拡大するも原料価格が高騰、Performance Fibersはアフリカ頭髮需要が回復、難燃・パイル分野も拡大するも原料価格高騰
<b>Health Care</b>	Medical Devicesは国内外で販売が堅調に推移、Pharmaはバイオ医薬品の販売が順調に拡大したが、販売が前年に集中した低分子医薬品原料は販売数量が減少
<b>Nutrition</b>	Foods & Agrisはユニークな新規食品素材の販売が拡大、Supplemental Nutritionは還元型コエンザイムQ10の販売が大幅に増加し、業績拡大に貢献

売上高

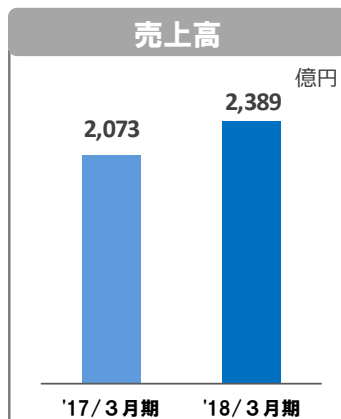
2,389億円 (対前期 15.2%増)

売上高構成比

40.1%

営業利益

271億円 (対前期 21.8%増)

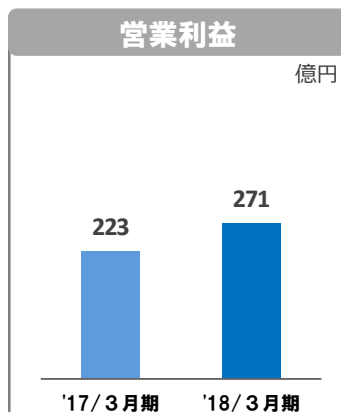


## Vinyls and Chlor-Alkali

- ・ アジアでの旺盛な需要に支えられてフル稼働が続いた
- ・ 今後も海外市場の需要拡大が続く塩素化塩ビ及び塩ビペースト樹脂の生産能力増強を検討中

## Performance Polymers

- ・ モディファイヤーは、欧米の堅調な需要に加えマレーシアの新しい第2系列が稼働し、供給のボトルネックを解消することができた
- ・ 変成シリコンポリマーは、マレーシアの新設備が昨年7月に稼働し中国・アセアン地域の新しい需要創出R & Dが本格的に始まった  
世界オンリーワンプロダクトの需要拡大は続いており、すでに決定したベルギーの能力増強を計画通り立ち上げることに、アメリカの新系列増強計画を急ぐ
- ・ 自動車・電子部品の用途開発が進んだエポキシマスターバッチに加え、航空機・宇宙産業向けの複合材や生分解性ポリマーなどの次世代先端技術素材の新しい工場についての本格的検討に着手



売上高

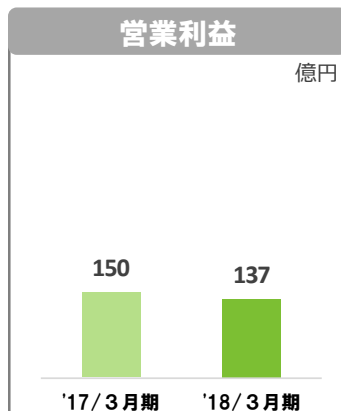
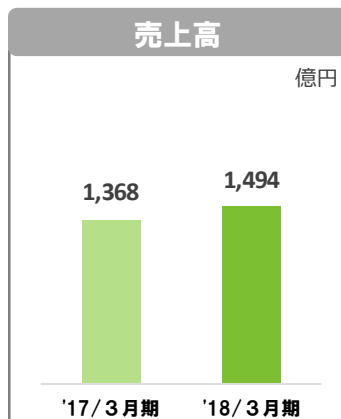
1,494億円 (対前期 9.1%増)

売上高構成比

25.1%

営業利益

137億円 (対前期 8.7%減)



## E & I Technology

- ・ 超耐熱ポリイミドフィルムは、高機能化を進め大手スマートフォンメーカーの新しいモデルやディスプレイ向けの販売が増加し、一昨年稼働した新工場もフル稼働になった
- ・ 今後、デジタルデバイスの小型化や高機能化に伴い、超耐熱ポリイミドフィルムや超高熱伝導グラファイトシートの需要が拡大するため、日本、アメリカ、マレーシアでの生産能力増強を順次実行していく

## Foam & Residential Techs

- ・ 販売数量は順調に拡大したが、原料価格高騰の影響を受けた
- ・ コスト構造を見直すとともに、価格改定による損益改善を実行する
- ・ 今後は、地球環境・省エネ・健康・食のグローバルな広がり貢献できるユニークな軽量・断熱発泡樹脂素材を住宅・医療・自動車・食料生産支援事業と組み合わせ、新しい需要を創出していく

## Performance Fibers

- ・ アフリカ市場の頭髮需要は確実に回復しており、高機能頭髮としてのブランド力を強化し、アフリカ及びその他市場の需要開拓を鋭意進めていく
- ・ 難燃・パイル分野の販売が拡大したが、原料価格高騰の影響を受けた

## PV & Energy management

- ・ 高効率太陽電池の販売が順調に拡大し、構造改革が進んだ
- ・ 太陽電池をコアに設計した住宅やビルのゼロエネ・マネジメント・システム開発が世界的に見直されており、当社の多様な素材や多角的な事業モデルを組み合わせた計画を推進していく

# 事業概況 (Health Care Solutions Unit)

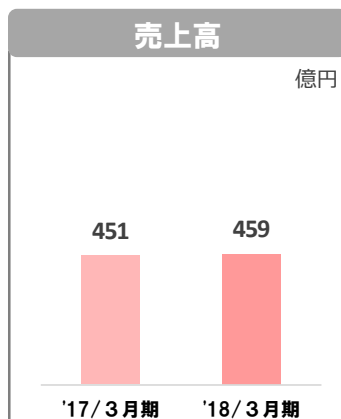
売上高

459億円 (対前期 1.6%増)

売上高構成比 7.7%

営業利益

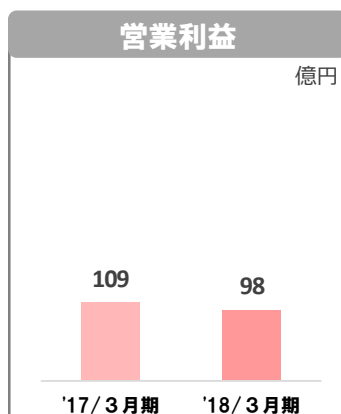
98億円 (対前期 9.6%減)



Medical Devices

- ・ 国内・海外市場とも販売が堅調に推移
- ・ 高機能バルーンカテーテルなど新製品の販売も順調に進んだ
- ・ 今後も薬剤を塗布したバルーンや消化器カテーテルなど新規医療領域の開拓による事業拡大に注力

Pharma



- ・ カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売は順調に拡大したが、販売が前年に集中した低分子医薬品原料の販売数量減少が大きく影響
- ・ ベルギーの生産能力増強を計画通り立上げ、グローバルに事業拡大を図っていく



売上高

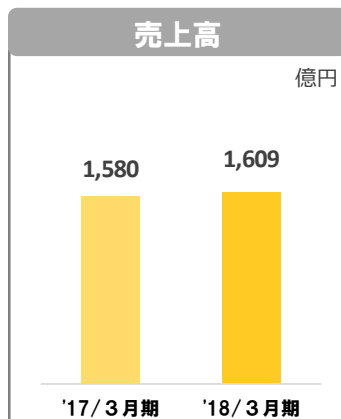
1,609億円 (対前期 1.9%増)

売上高構成比

27.0%

営業利益

65億円 (対前期 23.7%増)

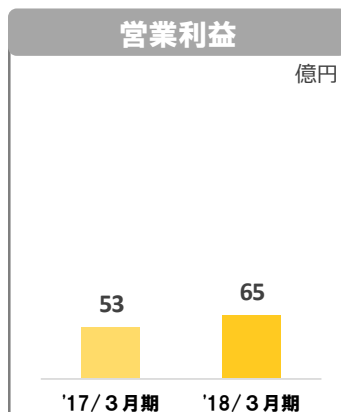


## Foods & Agris

- ・ 大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの積極的な提案型営業を進め、ユニークな新規食品素材の販売が拡大
- ・ ベルギーのピュア・ナチュラル社の技術を導入して、牛乳・バターをはじめとする乳製品事業に参入。おいしさと健康を追求するNutrition事業を拡大していく
- ・ 食料生産支援事業と組み合わせて、酪農家の生産性向上や循環型酪農に貢献していく

## Supplemental Nutrition

- ・ 主力の還元型コエンザイムQ10の販売が大幅に増加し業績拡大に貢献
- ・ 引き続き拡大するマーケットの販売促進に取り組むとともに、乳酸菌をはじめ新しいサプリメント素材を開発し事業拡大を進める



# 貸借対照表

(単位：億円)

	2017年3月末	2018年3月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	2,804	3,119	315
固定資産 等	3,125	3,291	166
資産合計	5,929	6,410	481
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,101	1,131	31
その他	1,613	1,813	200
負債合計	2,713	2,944	231
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,051	3,262	210
非支配株主持分 他	164	204	40
純資産合計	3,216	3,466	250
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>5,929</b>	<b>6,410</b>	<b>481</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>51.5%</b>	<b>50.9%</b>	
<b>1株当たり純資産</b>	<b>924.23円</b>	<b>995.33円</b>	

- 総資産は、売上高増加に伴う売上債権・棚卸資産の増加に加え、設備投資による有形固定資産の増加により増加

(単位：億円)

	2017年3月期	2018年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	481	498
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 364	△ 388
フリー・キャッシュ・フロー	117	110
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 136	△ 54
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 21	64
現金及び現金同等物の期末残高	410	474

- 営業CFは、売上拡大により運転資金が増加したが、純利益及び減価償却費により498億円の収入
- 投資CFは、積極的な設備投資の継続により388億円の支出

- 社会の変容や事業環境の変化は劇的なスピードで進み、エネルギー、資源、食糧問題等サステイナブル社会の実現に向けた取り組みが地球規模で加速していくことが想定される
- パラダイムがシフトし、化学会社にとって、IoT、AIや生命科学の進歩が産み出す新たなビジネスチャンスが到来
- 当社は、このグローバルな潮流を捉え、研究開発型素材メーカーとしてソリューションを提供し、事業ポートフォリオの変革に取り組む

(単位：億円)

	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)	増減
売上高	5,961	6,500	539 (9.0%)
営業利益	369	420	51 (13.9%)
経常利益	328	370	42 (12.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	216	230	14 (6.6%)

【2019年3月期 前提条件】 為替レート：105円/米ドル、125円/ユーロ 国産ナフサ価格：50,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- Materialは、モディファイヤー・変成シリコンポリマーの能力増強が本格的に寄与するとともに、エポキシマスターバッチなどの新製品の拡販を進める
- Quality of Lifeは、E & I Technologyの生産体制強化、Foam & Residential Techsのタイ新工場の立ち上げ、Performance Fibersのアフリカ・その他市場開拓を進める
- Health Care、Nutrition（Supplemental Nutrition）は、バイオ医薬品やサプリメントなどの主力製品のグローバル展開を加速させる

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2018年3月期 （実績）	2019年3月期 （予想）	増減	2018年3月期 （実績）	2019年3月期 （予想）	増減
Material SU	2,389	2,595	206	271	300	29
Quality of Life SU	1,494	1,625	131	137	173	36
Health Care SU	459	540	81	98	105	7
Nutrition SU	1,609	1,730	121	65	80	15
その他	11	10	△ 1	5	5	0
調整額	-	-	-	△ 209	△ 243	△ 34
<b>計</b>	<b>5,961</b>	<b>6,500</b>	<b>539</b>	<b>369</b>	<b>420</b>	<b>51</b>

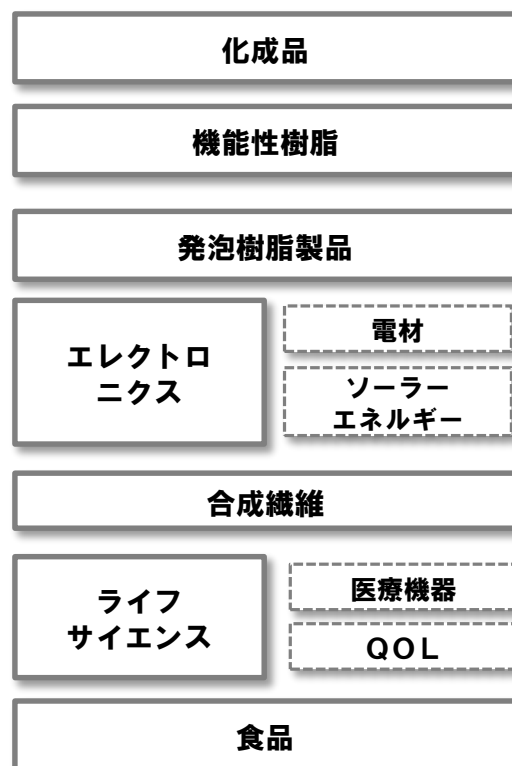
※SU：Solutions Unit

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

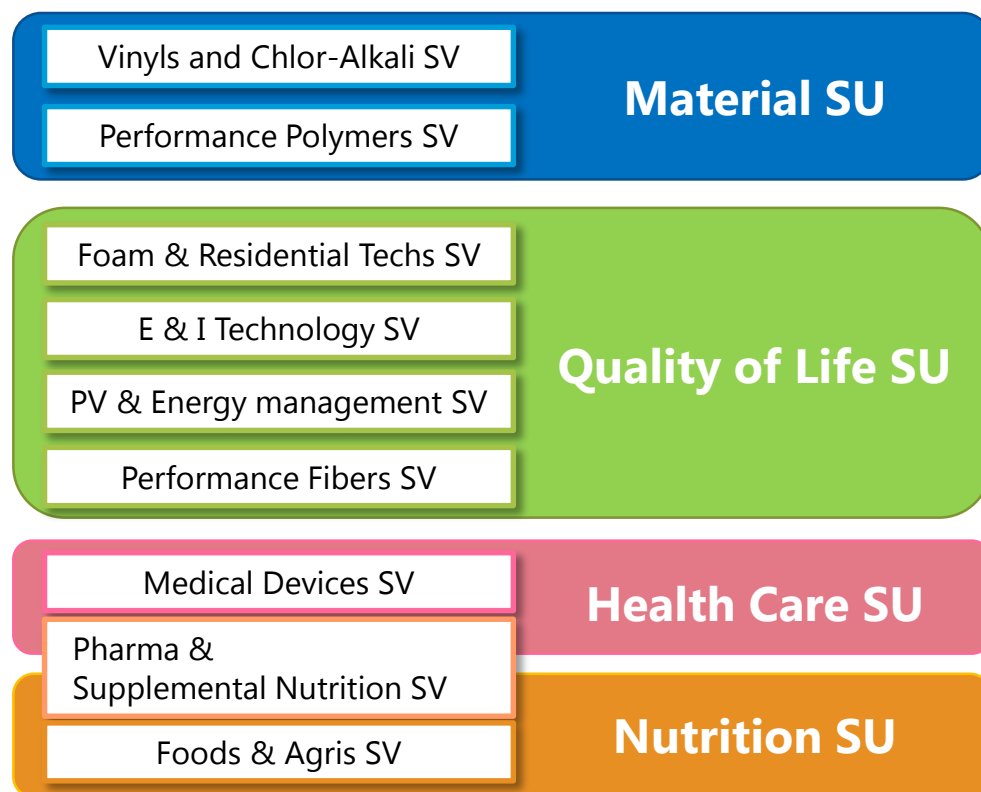
# (ご参考) 開示区分の変更について

- 2018年3月期第1四半期より、開示区分を下記のとおり変更しております

## 旧報告セグメント



## 新報告セグメント [2018年3月期以降]



※SU・・・ Solutions Unit (セグメント)

※SV・・・ Solutions Vehicle (事業単位)

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090